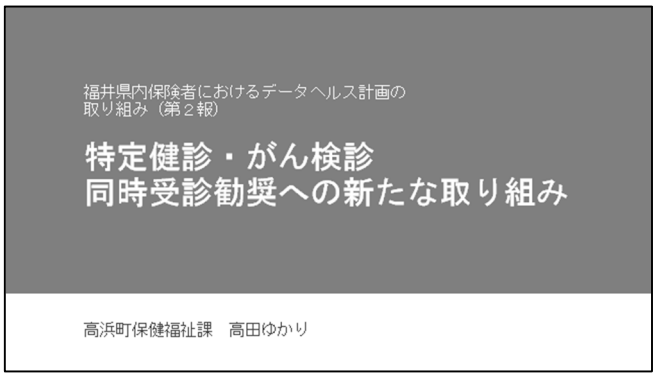
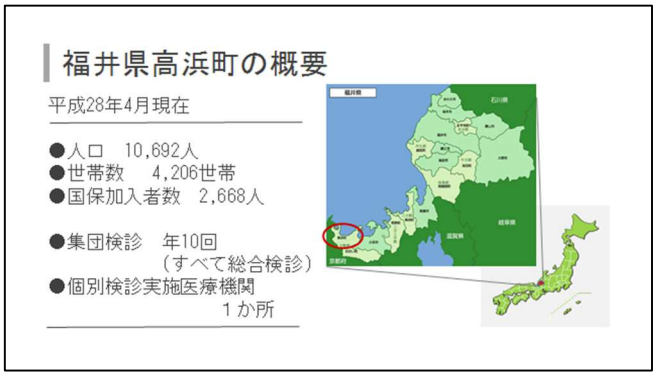
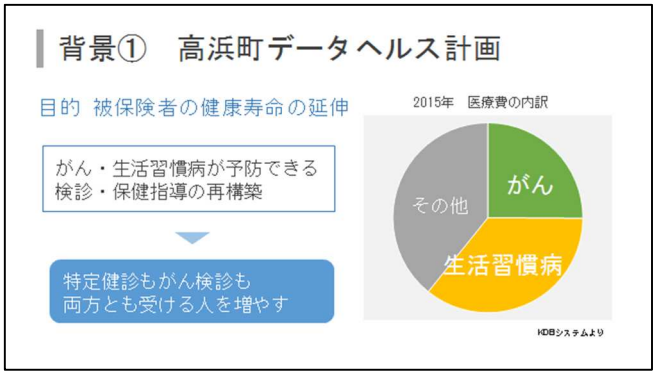
演題 154	福井県内保険者におけるデータヘルス計画の取り組み（第２報） ～特定健診・がん検診同時受診勧奨への新たな取り組み～
	発　表　者　高田 ゆかり（福井県　高浜町役場） 共同研究者　越林 いづみ、一瀬 育代



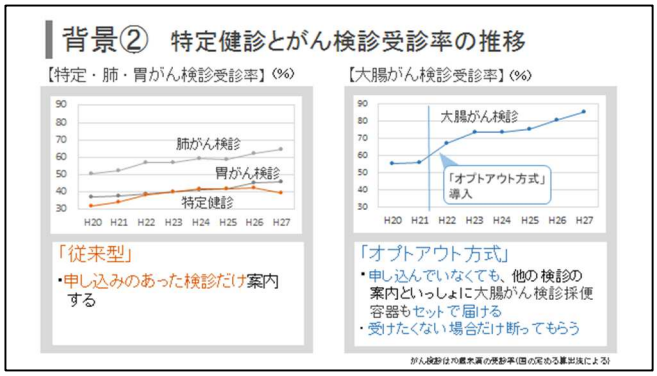


高浜町は、福井県の西の端に位置し、京都府と隣接しています。

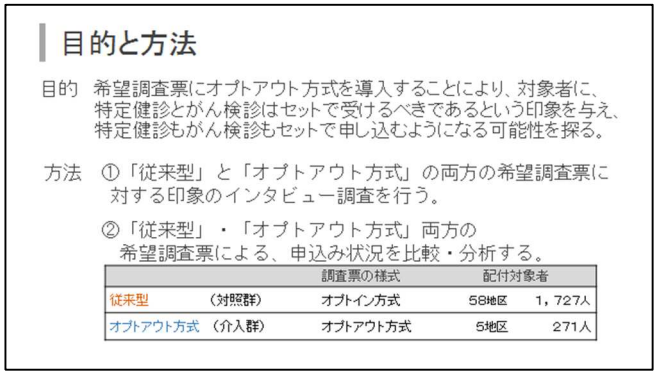
町内に検診を受けられる医療機関は１か所のみで、大半の方が集団検診を利用されます。集団検診は年１０回ですが、すべての会場が特定健診・がん検診を同時に受けられる総合検診となっています。



高浜町国保の医療費の状況をみていると、がんと生活習慣病が医療費の２／３を占めていることから、データヘルス計画では、被保険者の健康寿命延伸のために、特定健診もがん検診も両方とも受ける人を増やすことを目標のひとつとしています。



H20 年からの特定健診・がん検診の受診率を見てみると、左のグラフの、特定健診、肺がん・胃がん検診は横ばいですが、右の大腸がん検診は、H22 年に急激に伸び、以後も伸び続けています。その要因は、検診の案内の違いにあります。左の検診は申し込みのあった検診だけ案内を送る方法です。一方、大腸がん検診は、申し込んでいなくても、希望する他の検診の案内といっしょに大腸がん検診の採便容器もセットで届け、受けたくない場合だけ断ってもらう「オプトアウト方式」の案内方法です。

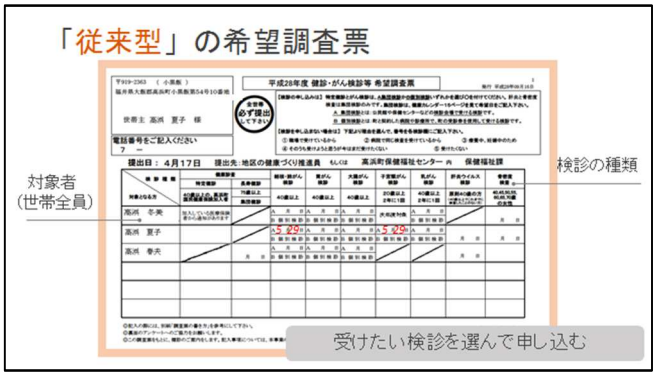


大腸がん検診はオプトアウト方式の案内に変えたことで、受診率が伸び続けていることから、今回、検診の申し込み書である希望調査票にオプトアウト方式を取り入れることで、すべての検診をセットで申し込む人を増やすことができないかを試しました。

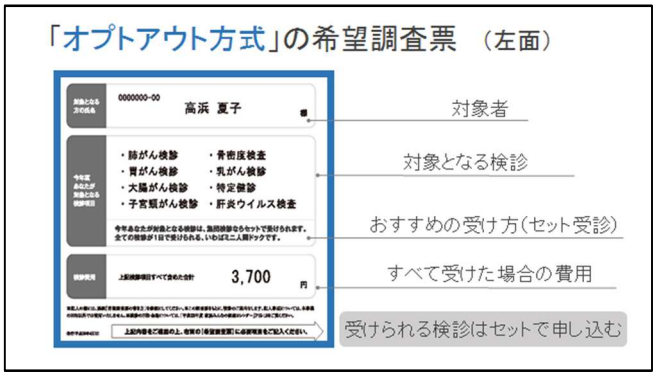
目的です。希望調査票にオプトアウト方式を導入することにより、対象者に、特定健診とがん検診は

セットで受けるべきであるという印象を与え、そしてセットで申し込むようになる可能性を探るということです。

方法は、以前から使用していた「従来型」の希望調査票と「オプトアウト方式」の希望調査票の両方の印象についてインタビューを行いました。それから、両方の申込み状況を比較分析しました。従来型の希望調査票は５８地区、１，７２７人に、オプトアウト方式の希望調査票は、５地区、２７１人に配布しました。配布・回収方法は、両方同じです。

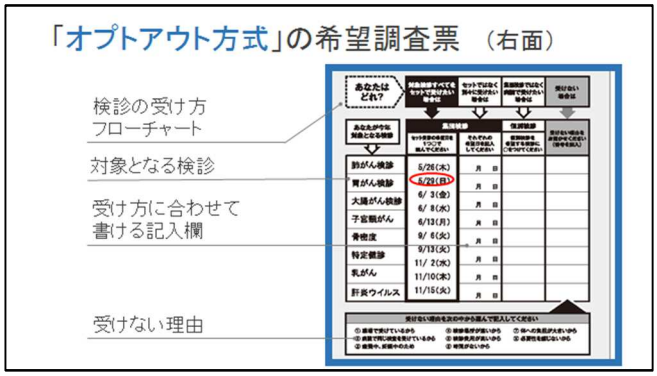


従来型の希望調査票です。この希望調査票は、世帯に１枚配布され、検診の対象となる方、全員の名前が書いてあります。対象者は、受診できる検診の種類の中から、希望する検診を選び、希望する日にちや受け方を記入します。

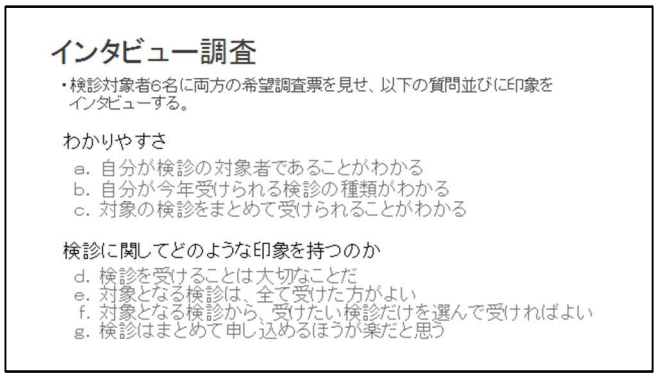


一方、オプトアウト方式は、個人ごとの希望調査票とし、紙面の左側にその人が、今年対象となる検診の種類を大きく表記しています。

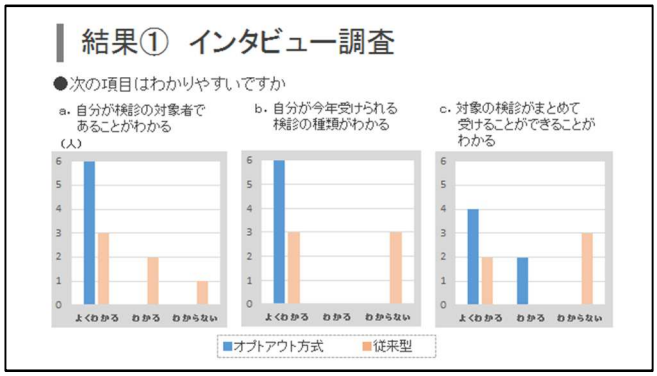
また、これらの検診は、すべてまとめたセットでの受診をおすすめしています。



そして、右側には、すべての検診をセットでうける場合には、日にちを選んで○をするだけで、申し込みが完了する様式になっています。検診をセットではなく希望のものだけ申し込みたい場合や、病院で受ける個別検診を希望する場合には、希望する日にちや受け方を記入するようにしています。



インタビュー調査では、検診対象者６名に、両方の希望調査票を見せ、わかりやすいか、検診に関してどのような印象を持つのか、７項目について聞き取りをしました。

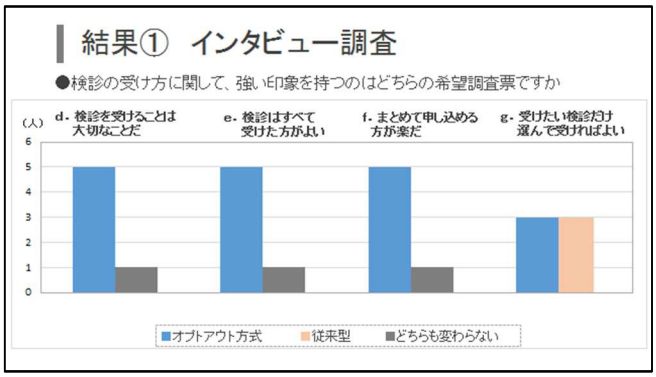


インタビューの結果です。２種類の希望調査票の、わかりやすさを聞きました。

３つの質問では「健診の対象者であることがわかるか」「受けられる健診の種類がわかるか」「まとめて受けることができることがわかるか」３段階で評

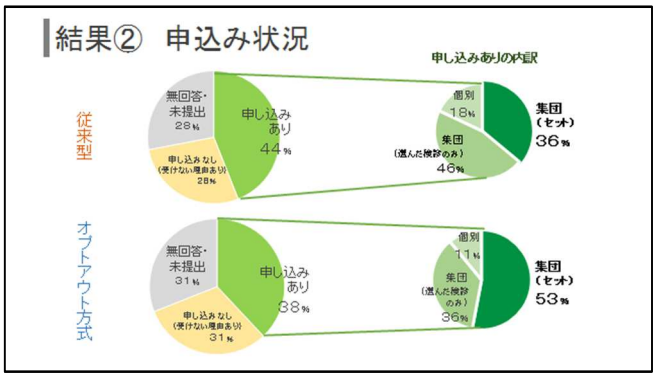
価してもらいました。

すべての項目において「よくわかる」「わかる」と答えた人がオプトアウト方式のほうに多くいました。



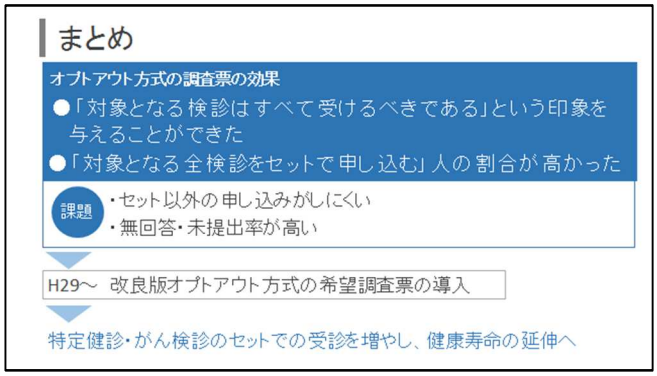
次に検診に関する４項目について、２種類の希望調査票を見比べ、より印象が強いのはどちらか選んでもらいました。

「検診を受けることは大切なこと」「検診はすべて受けたほうがよい」「まとめて申し込める方が楽だ」という印象は、ほとんどの人がオプトアウト方式の方が強いと感じていました。「受けたい検診だけを選んで受ければよい」という印象に関する項目は、半数に分かれました。



２種類の希望調査票を使った申込みの状況です。

検診を申し込んだ人の割合は、従来型４４％、オプトアウト方式３８％と、従来型の方が高い割合でした。しかし、申し込みの内訳をみてみると、「対象の検診をすべてセットで申こんだ人」の割合は、従来型が３６％に対し、オプトアウト方式は５３％とオプトアウト方式のほうが高い割合でした。従来型に比べ、オプトアウト方式で申し込み割合が低かったことは、セット以外の申し込みの割合が低かったことと、無回答・未提出率の高さが原因であると考えられます。



まとめです。今回の取り組みを通して、オプトアウト方式の調査票は「対象となる検診は全てうけるべきである」という検診の受け方に対する印象を与えることができました。また対象となる全ての検診をセットで申し込む人の割合を高めることができました。しかし、オプトアウト方式の希望調査票の解決すべき課題としては、セット以外の申し込みがしにくいこと。無回答・未提出率が高いことがあげられます。今後は、この２点を解決して、改良版オプトアウト方式の希望調査票を平成２９年度に導入することで、さらに特定健診・がん検診の両方を受ける人を増やし、健康寿命延伸へとつなげていきたいと思います。